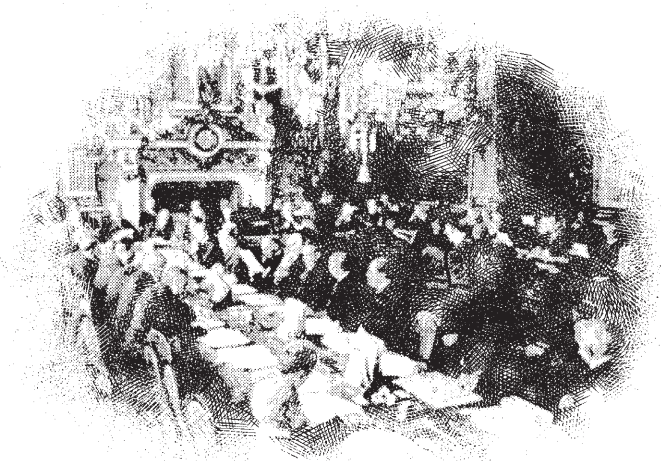
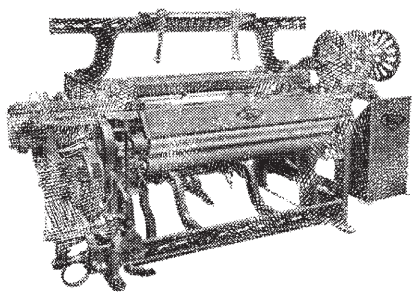


第3章

日本綿花　パリ講和会議に随行、ビルマの精米工場買収、
鈴政式織機（現・エンシユウ）の初代社長に就任



大正八(一九一九)年
日本綿花の社長 喜多又蔵は
パリで開催される講和会議の
西園寺公望全権代表の
随行員に選ばれた



喜多はこのとき
四二歳の若さであった



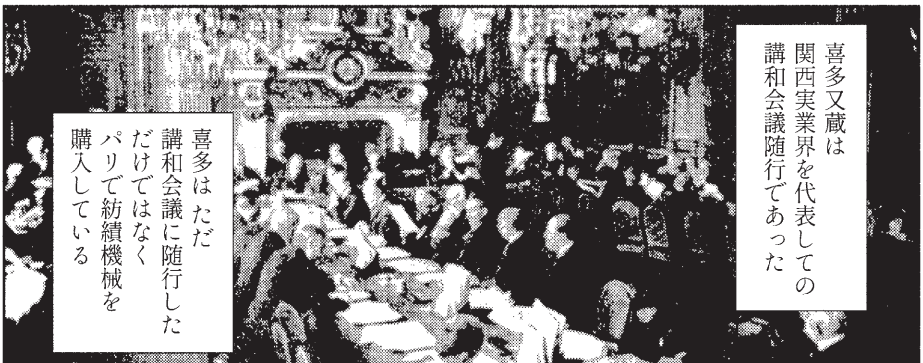
民間人からは
四人しかいません
この大戦中
喜多さんのおかげで
大英帝国の市場を
大いに奪い日本に膨大な
外貨をもたらした
からかな……

日本は産業面でも
世界に確固たる存在感を
示すようになり
アメリカ・イギリス・
フランス・イタリアに並ぶ
五大国の仲間入りを
果たした



この機会に有色人種の
地位を高め人種差別も
やめさせなければ
ならない
発言権を強め
言うべきことを
言わねばならん!

喜多又蔵は
関西実業界を代表しての
講和会議随行であった

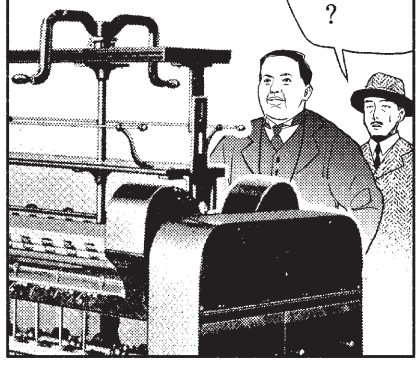


喜多はただ
講和会議に随行した
だけではなく
パリで紡績機械を
購入している

喜多社長
この機械はどこに
設置するんですか？

中国だ
今後日本の
紡績会社の
中国進出は
どんどん
進むぞ

喜多さんは中国の
専門家ですもんね
そういえば
日清紡の宮島さんも
中国青島に工場を
設立するそうですね
元日本綿花の
村田由蔵さんも
大活躍とか



原料の棉花は
中国にある
それに今後は日本も
賃金が上昇して
くるだろう

大正一三(一九二四)年
漢口に泰安紡績が設立される

大正一四(一九二五)年までに
日本から一七社が進出し
中国全域の紡績設備の四割弱を
在華紡(日系の紡績会社)が
占めるようになった



また喜多は
ヨーロッパの
空気を体感し
それを事業に
活かした

ロシア革命以来
社会主義革命の
流れが各地に
吹き荒れて
いるな……

鈴木商店の事件は
他人事ではない
農村から都市に
人が流入しそこに
米価高騰が
追い打ちをかけた
日本の工業化、都市化を
象徴する事件だろう
……



人々の生活を安定させるためにはまず食料の供給が重要だということは葛城村(奈良)の親父に学んだ

ビルマ(現・ミャンマー)は世界有数の稲作地帯……

よしっ
ビルマの開拓者として
日本綿花の出番だ
やるぞ!

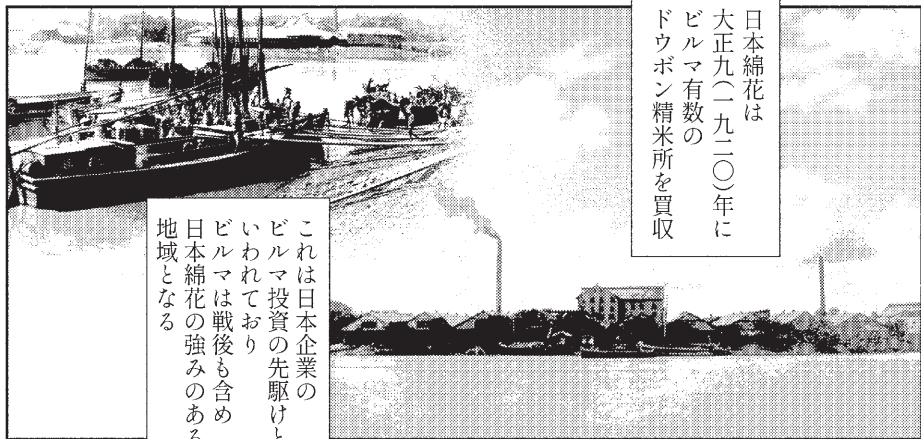
喜多は
ラングーン(現・ヤンゴン)
出張所長あてに
手紙をしたためた

日本人による
海外での精米事業は
まだひとつもない
ビルマで可能性を
探るように……と



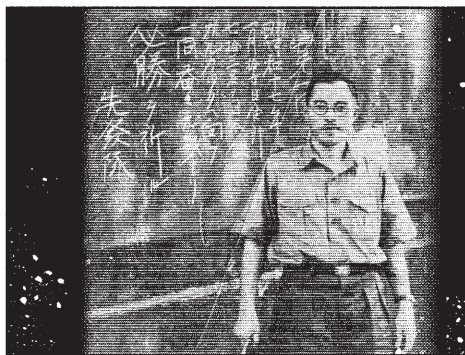
日本綿花は
大正九(一九二〇)年に
ビルマ有数の
ドウボン精米所を買収

これは日本企業の
ビルマ投資の先駆けと
いわれており
ビルマは戦後も含め
日本綿花の強みのある
地域となる



日本綿花は
最多の駐在員を派遣し
ジャパンといえは
日本綿花のことを
指すといわれていた

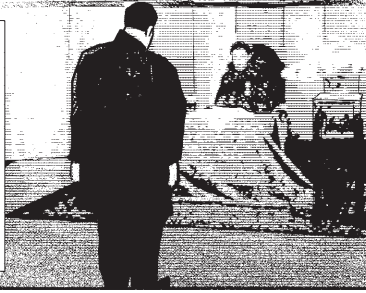
しかし
インパール作戦にて
現地招集され社員四五名が
戦死するという悲劇にも
見舞われた……



喜多又蔵は帰国後
天皇陛下に講和会議の
報告のために謁見

大正九(一九二〇)年
勲三等
旭日中綬章を賜る

関西の実業家かつ
この年齢での叙勲は
異例のことであった



五大国に名を連ねても
産業面はまだまだや
機械産業も発展させ
なければならん
世界的な需要に合った
大量生産に向く
織物の機械の製造も
考えたい

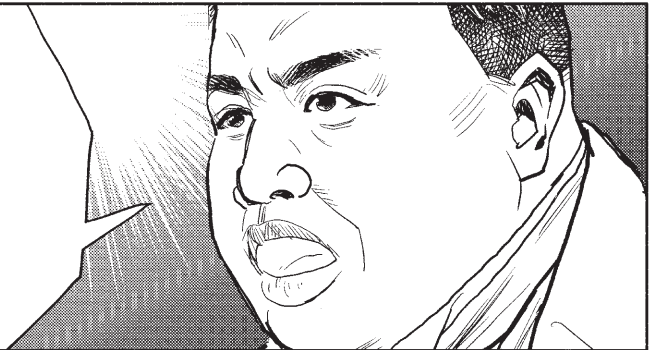
まだ日本でも
中国でも
足踏織機が主流
ですからね

静岡の浜松に
鈴木政次郎という
有能な技術者がおる
豊田織機と並ぶほど優秀で
より近代的な織機製造を
考えているらしい

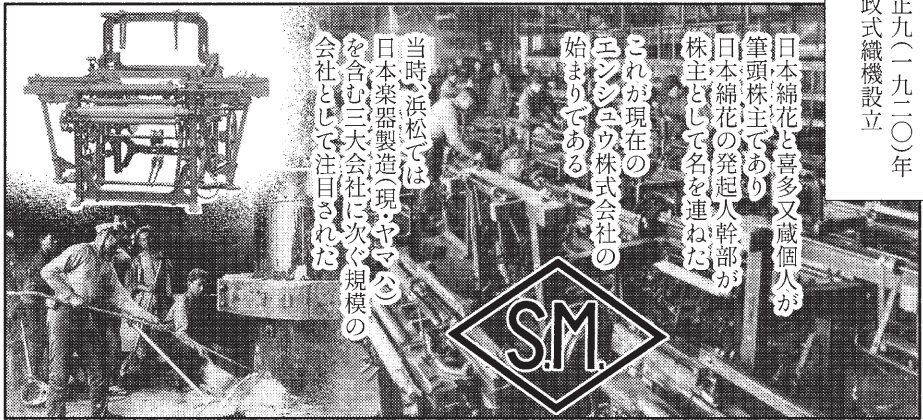
あの豊田と……



このままでは
世界の競争から
取り残されてしまう
日本が世界一の
紡績大国になるためには
革新的な織機の製造が
必要なんや！



大正九（一九二〇）年
鈴政式織機設立



日本綿花と喜多又蔵個人が筆頭株主であり日本綿花の発起人幹部が株主として名を連ねた

これが現在のエンシユウ株式会社の始まりである

当時、浜松では日本楽器製造（現ヤマハ）を含む三大会社に次ぐ規模の会社として注目された



しかし創業間もなく日本経済は大不況に突入経営は窮地に陥り

ともすれば閉鎖という事態さえ考えなければならぬ状況に追い込まれた

喜多は関西の織維機械業界で評判の優秀な技術者であり同郷の阪本久五郎に会い鈴政式織機の再建を依頼した



彼が開発した高性能の阪本式自働織機は国内外に大量に販売された

喜多は昭和七（一九三二）年に亡くなるまで同社の社長を務めた

